

成績評価(進級・卒業判定)基準の明示

1. 各授業科目の成績評価方法は、学修要項の授業科目評価方法欄に次のとおり明示する。(但し、科目によって欄の表記が異なる場合がある)

【第1 学年評価項目】

学修成果は次の評価項目を総合して評価する。

評価区分	評価項目	評価の対象	評価割合
形成的評価	レポート	技能・態度	
	出席状況	態度	
	授業態度	態度	
	小テスト	知識	
	口頭試問	知識	
総括的評価	ユニット試験成績	知識	%
	実習成績	技能・態度	%
	その他		%
合 計			100%

(特記事項) 上記以外の評価項目を記載

【第2～3 学年評価項目】

学修成果は次の評価項目を総合して評価する。

評価区分	評価項目	評価の対象	評価割合
形成的評価	実習・レポート	技能・態度	
	PBL	技能・態度	
	小テスト	知識	
	口頭試問	知識	
総括的評価	ユニット試験	知識	%
	その他		%
合 計			100%

(特記事項) 上記以外の評価項目を記載

金沢医科大学医学部 共用評価ルーブリック

各授業科目の成績評価方法は、学修要項の授業科目評価方法欄に記載している。各項目の評価基準の可視化を目的として、金沢医科大学医学部 共用評価ルーブリックを次のとおり明示する。

ただし、あくまで参考であり、科目によって実際の評価と異なる場合がある。

【共用評価ルーブリック】

評価項目	5	4	3	2	1
ユニット試験	90 点以上	80～89 点	70～79 点	60～69 点	59 点以下
実 習	アウトカム(ユニットの到達目標)を完全に満たし、さらに独自の視点や工夫を加えて積極的に行動できる。	アウトカム(ユニットの到達目標)を十分に満たしている。	アウトカム(ユニットの到達目標)を適度に満たしている。	アウトカム(ユニットの到達目標)を最低限満たしている。	アウトカム(ユニットの到達目標)のうち、満たしていないものがある。
レポート	十分に資料を参照し、固有の視点から論じられ、論理的に述べられており、レポートの構成能力が高い。	十分に資料を参照し、固有の視点から論じられ、論理的に述べられている。	適量の資料を参照し、固有の視点から適量論じられ、適量論理的に述べられている。	限定的に資料を参照し、固有の視点から一部論じられ、一部論理的に構成され作製されている。	資料を参照せず、固有の視点から論じられず、論理的に構成されていない。
ポートフォリオ	学修の成果に自学の成果が「50%程度」含まれている。	学修の成果に自学の成果が「30%程度」含まれている。	学修の成果に自学の成果が「20%程度」含まれている。	学修の成果に自学の成果が「10%程度」含まれている。	学修の成果に自学の成果が含まれていない。
出席状況 授業態度	皆出席である。 大変積極性がある。 提出物は期限内に提出される。	皆出席である。 積極性がある。 提出物は期限内に提出される。	皆出席である。 提出物は期限内に提出される。	遅刻がある。 提出物は期限内に提出されない。	1回以上の欠席があり、あるいは出席しているが授業と無関係な不適切な行動をとっている。 または、提出物は提出されない。

令和7年度 各学年進級（卒業）判定基準

1. 判定基準

① 第1学年

進級判定対象科目:全科目

「総合人間科学」、「大学基礎セミナー」、「健康の科学」、「人の行動と心理」、「アカデミック・スキルズ」、「クリティカル・シンキング」、「ドイツ語」、「医学統計」、「細胞生物学」、「医療プロフェッショナリズム入門」、「医療と倫理」、「医療と社会」、「医学英語Ⅰ」、「情報の科学」、「医療行動科学」、「人体の構造Ⅰ」、「内分泌・生殖系」、「代謝と遺伝Ⅰ」

進級可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格を基準とする。

※ 不可科目が4つ以上ある場合は留年とする。

※ 不可科目が3つまでの場合は進級保留とし、当該年度中に最終判定試験に合格することを進級要件とする。

※ 各ユニットにおいて、追再試験実施回数は1回を上限とする。

② 第2学年

進級判定対象科目:全科目

「医学英語Ⅱ」、「医療プロフェッショナリズムⅡ」、「人体の構造Ⅱ」、「脳・神経・感覚器系」、「呼吸器系Ⅰ」、「心臓血管系」、「腎・尿路系Ⅰ」、「消化器系Ⅰ」、「代謝と遺伝Ⅱ」、「微生物学」、「免疫学」、「生体と薬物」、「病態病理」、「臨床序論」、「死と法」、「医学・医療と社会」

進級可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格を基準とする。

※ 不可科目が4つ以上ある場合は留年とする。

※ 不可科目が3つまでの場合は進級保留とし、当該年度中に最終判定試験に合格することを進級要件とする。

※ 各ユニットにおいて、追再試験実施回数は1回を上限とする。

③ 第3学年

進級判定対象科目:全科目(※共用試験(CBT・Pre-CC OSCE)を含む)

「医療プロフェッショナリズムⅢ」、「呼吸器系Ⅱ」、「血液・免疫系」、「皮膚系」、「耳鼻咽喉・口腔系」、「循環器系」、「腎・尿路系Ⅱ」、「消化器系Ⅱ」、「神経・精神系」、「運動器系」、「視覚系」、「内分泌・代謝系」、「周産期・生殖系」、「成長と発達」、「高齢医学」、「麻酔・救急系」、「診療参加型臨床実習入門」

進級可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格及び共用試験(CBT・Pre-CC OSCE)合格を基準とする。

※ 各ユニットにおいて、追再試験実施回数は1回を上限とする。

④ 第4学年

進級判定対象科目

「臨床実習」、「クリニカルスキルアッププログラム」

進級可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格及び標準試験合格を基準とする。

※ 「臨床実習」の成績は、各実習科の評価を基に算出し、「クリニカルスキルアッププログラム」の成績は標準試験成績とする。

評価は「0」～「5」の6段階とし、評価「1」以下が2つ以上、もしくは評価「2」以下が4つ以上の場合、「臨床実習」を不可とする。

※ 標準試験の受験資格認否の対象は「クリニカルスキルアッププログラム」「臨床実習」の出欠席とする。

⑤ 第5学年

進級判定対象科目:

「臨床実習」、「臨床推論」

進級可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格及び標準試験合格を基準とする。

※ 「臨床実習」の成績は、各実習科の評価を基に算出し、「臨床推論」の成績は標準試験成績とする。

評価は「0」～「5」の6段階とし、評価「1」以下が2つ以上、もしくは評価「2」以下が4つ以上の場合、「臨床実習」を不可とする。

※ 標準試験の受験資格認否の対象は「臨床推論」「臨床実習」の出欠席とする。

⑥ 第6学年

卒業判定対象科目等:

「臨床実習」、「集中講義」

卒業可否判定基準:

GPA 2.0 以上を基準とし、かつ全ての科目の合格を基準とする。

※ 「臨床実習」の成績は Post-CC OSCE 成績、「集中講義」の成績は標準試験成績とする。

※ Post-CC OSCE の受験資格認否の対象は「学内・学外臨床実習」の出欠席及び成績とする。

※ 標準試験の受験資格認否の対象は「集中講義」「外部試験」の出欠席とする。

注意:GPA(Grade Point Average)計算における科目単位数及び計算方法について

専門教育科目(時間数科目)における単位については、金沢医科大学医学部教務に関する規程第3条の別表における各科目の「(時間数)/30」として算出する。

(G P A 試 算 方 法)												
$\frac{(\text{素点} - 40)}{10}$	×	単位数	+	$\frac{(\text{素点} - 40)}{10}$	×	単位数	+	$\frac{(\text{素点} - 40)}{10}$	×	単位数	+	...
科目単位数の合計												

2. 授業の出欠席及び試験の受験資格について

授業実施予定回数のうち、10分の7以上の出席が認められた者に試験の受験資格を与える。従って、欠席回数が10分の3を超えた者は受験資格失格となり、当該科目に係る全ての試験を受験出来ない。

3. 補習

次の理由による欠席の場合に、「欠席届(及び補習願)」を提出した者には、ユニット責任者(ユニット責任者の定めがない科目は学年主任及び教務部長)が必要と認めた場合は補習を行い受験資格の回復機会を与えることができる。

なお、補習終了後、補習終了報告書を教務委員長宛に提出することとする。

注. 欠席した学生は上記承認を受け、病気等回復後7日以内に教学課まで提出すること。

(欠席理由)

- ・ 学校保健安全法施行規則に指定されている学校感染症に罹患した場合 ※要診断書(公文書)
- ・ 入院
- ・ 忌引届(配偶者、父母、祖父母、兄弟姉妹、子女等が死亡の場合)※要証明書

4. 評価方法

進級と卒業は、各学年進級(卒業)判定基準に従って各学年の成績審査委員会で審査し、その結果を医学部教授会で審議し学長が判定する。